

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00703

研究課題名（和文）留学中の第二言語習得とアイデンティティ：映像データによる自伝的アプローチ

研究課題名（英文）Investigating second language acquisition and identities in study abroad contexts through visual biographical approach

研究代表者

海野 多枝 (Umino, Tae)

東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・教授

研究者番号：00251562

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、言語的語りと視覚的資料を活用したマルチモーダル第二言語学習史の分析を通じて、新たな視点から言語的語りのみには表出されない第二言語学習ビリーフ及びアイデンティティに光を当てた。また、マルチモーダル学習史における視覚的資料の使われ方の分析を通じて、これらの要素の使い方が学習史の構成に大きく関わっていると同時に、学習者のビリーフやアイデンティティの構築とも関わっているとの新たな知見を提示した。以上を通じて、視覚的データを活用した新たなライフストーリー研究法を開拓し提案した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来の研究で十分に活用されてこなかった視覚的資料を研究データとして活用し、新たな視点から言語的データでは十分に表出されない第二言語学習者のビリーフ及びアイデンティティの記述を行った点、マルチモーダルナラティブを取り入れたライフストーリー研究法を新たに開拓した点、また、英語学習者を対象とする研究が大半を占める第二言語習得分野において、日本に留学している日本語学習者に焦点を当て、目標言語や学習の文脈による第二言語習得の多様性に光を当て、その成果を国際的に発信した点などにおいて、学術的・社会的な意義が認められるのではないかと考えている。

研究成果の概要（英文）：This study sheds light on second language learners' beliefs and identities during study abroad by making use of multimodal second language learning histories incorporating linguistic narratives and visual images. Analysis of the use of visual images in the multimodal learning histories of learners of Japanese and learners of English revealed that the types of images chosen play an integral role in the construction of each learning history as well as the construction of learners' beliefs and identities. Through these findings the study proposes a new research approach that incorporates visual images as data for investigating second language learning experiences more generally

研究分野：応用言語学

キーワード：第二言語習得 自伝的アプローチ マルチモーダル第二言語学習史

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、言語的語りと視覚的資料の双方を活用したマルチモーダル第二言語学習史を活用した研究方法を通じて、学習者の視点から見た留学中の第二言語習得経験を記述し、学習者のピリーフ及びアイデンティティの構築に新たな視点から光を当てることを主眼とする。近年、情報機器の普及等により、人々の写真撮影の頻度が増し、視覚的資料が日常的なあらゆる場面で使われるようになった。コミュニケーション研究の分野では、言語的資料と視覚的資料を複合的に組み合わせたマルチモダリティの研究の必要性が叫ばれて久しいが、特に応用言語学分野では、視覚的資料を含めた非言語的資料の活用は、注目されつつあるものの、いまだ未開拓な領域といわざるをえない。本研究では、自伝的アプローチの1つである学習史に視覚的データを取り入れたマルチモーダル第二言語学習史という新たな手法を取り入れ、より多角的な視点から留学中の第二言語習得経験の問題を探り、理論化を試みた。なお、当初は外国人留学生在が撮影した写真を中心としたデータ収集を予定していたが、コロナ禍により困難になったこともあり、写真以外の視覚的データも含めたマルチモーダル第二言語学習史データを収集することとした。また、これに伴い、分析の観点もアイデンティティの変容のみならず、学習史に表出される第二言語学習ピリーフも合わせて見ていくこととし、英語を学ぶ日本人大学生のデータも収集して比較検討を加えることとした。

## 2. 研究の目的

- (1) 第一の目的は、特に日本に留学している外国人留学生的の日本語学習を中心とする第二言語学習経験を、マルチモーダル第二言語学習史を通じて明らかにし、第二言語学習のピリーフ及びアイデンティティがいかにして構築され、変化していくのかを探ることにある。従来の学習史研究は言語的語りを対象としていたが、本研究では視覚的資料をも活用することで、言語的語りには表出されない新たな側面から学習者のピリーフ及びアイデンティティを捉えられる可能性がある。
- (2) 第二の目的は、第二言語学習者自身が作成した、視覚的資料と言語的資料を組み合わせたマルチモーダル第二言語学習史を活用することで、第二言語学習経験の新たな研究方法を開拓し、提案することにある。
- (3) 第三の目的は、日本に留学して日本語を学習する外国人留学生的を対象とし、日本人英語学習者との比較を交えることで、いわゆる「英語以外の言語 (Languages Other Than English (LOTE))」の第二言語習得の特徴を記述し、目標言語を取り巻く文脈の違いが第二言語習得に及ぼす影響についても考察することにある。

## 3. 研究の方法

- (1) 日本語を学習する外国人留学生的と英語を学習する日本人大学生を対象とし、マルチモーダル第二言語学習史データを収集した。また、特に近年、日本語教育機関に通わずに独習で日本語を学ぶ「新しい日本語学習者」が増加している状況に鑑み、日本語独習者の学習史も合わせて収集した。学習史は、まず文章で作成してもらった後、パワーポイントを含む視覚的資料を作成の上口頭で発表してもらうという方法を取った。これらのデータを研究期間中に収集し、データベースを作成した。収集された学習史データは53件、このうち抽出された視覚的要素は975件であった。
- (2) 分析の手法としては、学習史データベースを用いて全体の傾向を把握するための量的分析

と、個々の学習史の特徴を把握するための質的分析とを組み合わせた。

- (3) 学習史データベースの量的分析では、マルチモーダル学習史に出現した視覚的要素を洗い出し、言語的ナラティブと合わせて解釈を加えた後、視覚的要素のカテゴリー化を行い、その出現頻度を算出した。この分析を通じて、本調査協力者のマルチモーダル第二言語学習史が全体としてどのような視覚的要素によって構成されているかを明らかにした。
- (4) 学習史の質的分析においては、個々の学習史に出現した視覚的要素の種類の割合を分析し、視覚的要素を用いた学習史の構成のされ方に着目して、4つのパタンに分類した。その上で、視覚的要素を用いた学習史の構成のパタンと学習者のビリーフ及びアイデンティティの表出の関係について考察した。
- (5) さらに、日本語学習者と英語学習者の学習史の比較検討を行い、いわゆる「英語以外の言語(Languages Other Than English (LOTE))」学習と英語学習の違いに着目して分析を加えた。

#### 4. 研究成果

- (1) マルチモーダル学習史データベースの視覚的要素の分析の結果、学習史の構成に用いられる視覚的要素は、主に言語、場所、人(学習者自身、学習者以外)、リソース(教室内、教室外)、言語学習過程の分析、の5つの要素に分類されることが分かった。また、日本語学習者と英語学習者を比較すると、日本語学習者は教室外リソースを多く表していることも窺われた。
- (2) 個々の学習史の構成において、どの種類の視覚的要素が多く使われているかを分析したところ、特定の種類が多く使われる傾向があることが分かり、軸となる種類に基づき4つのパタンが見出された。人(学習者)を中心とする学習史、リソースを中心とする学習史、場所を中心とする学習史、分析を中心とする学習史の4つである。
- (3) それぞれのパタンを表す個々の学習史について、視覚的要素と言語的語りとを照合しつつ質的に分析を加えたところ、これらのパタンは単に学習史の構成のみならず、学習者の第二言語学習経験を通じて構築されたビリーフやアイデンティティの表れとも見なすことができるとの解釈に至った。人を中心とする学習史では、学習者自身の情意面(動機づけや不安)に焦点が当てられ、情意面のコントロールが第二言語習得の成否を分けると認識されていた。リソースを中心とする学習史では、学習に用いられるリソースやそれを使う際の学習ストラテジーに焦点が当てられ、リソースと学習ストラテジーの選択が第二言語習得の成否を分けると認識されていた。場所を中心とする学習史は、複数の国への移動を通じて目標言語を学んだ学習者によって構成されたもので、言語を学ぶ場所や環境こそが第二言語習得の成否を分ける最も重要な要因として認識されていた。分析を中心とする学習史では、自分自身の言語能力の上昇と下降、また変化する言語能力の領域の分析に焦点が当てられ、いかにして言語能力の各領域を引き上げるかが重要な要因と認識されていた。
- (4) さらに、学習者の特性ごとに学習史のパタンを分析したところ、英語学習者は人を中心とする学習史、日本語学習者はリソースを中心とする学習史、日本語独習者はリソース(特に教室外リソース)を中心とする学習史をより多く構成する傾向がみられた。これは、目標言語を取り巻く文脈がビリーフ及びアイデンティティの形成に影響していることを示唆しており、ビリーフ並びにアイデンティティの流動的・文脈依存的概念化をも裏付ける結果となった。
- (5) 従来の視覚的データを用いた第二言語習得研究では、特定の視覚的データに現れた内容を分析対象として解釈するという手法が中心であった。本研究では、表れる内容のみならず、マルチモーダルナラティブとしての学習史が視覚的要素も合わせてどのように構成されるかという視点を取り入れて分析を加えた。学習史並びにナラティブの分析においては、内容のみならず構造的側面にも焦点をあてる必要があることが指摘されてきたが、本稿ではマルチモーダル学習史においても同様に構造面にも目を向けることで、マルチモーダルナラティブの構造を通じた学習者のビリーフやアイデンティティの表出を探ることができたのではないかと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Tae Umino	4. 巻 107
2. 論文標題 Using multimodal language learning histories to understand learning experiences and beliefs of second language learners in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Modern Language Journal	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/modl.12828	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tae Umino	4. 巻 2(2)
2. 論文標題 Reconceptualising the silent period: Stories of Japanese students studying abroad	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Silence Studies in Education	6. 最初と最後の頁 68-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.31763/jsse.v2i2.32	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tae Umino	4. 巻 2
2. 論文標題 Exploring beliefs and practices of L2 self-instructional learners of Japanese through multimodal language learning histories	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Tokyo University of Foreign Studies Japan Studies Review	6. 最初と最後の頁 84-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 海野多枝・邱顯峻	4. 巻 24
2. 論文標題 遠隔外国語学習における第二言語不安：台湾の仮想教室型授業を対象に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本研究教育年報	6. 最初と最後の頁 75-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi, W. and Umino, T.	4. 巻 17
2. 論文標題 Out-of-Class Extensive Reading in Japanese as A Second Language: Enhancing Learner Autonomy Beyond the Classroom.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Electric Journal of Foreign Language Teaching.	6. 最初と最後の頁 50-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Tae Umino
2. 発表標題 Exploring beliefs and practices of L2 self-instructional learners of Japanese through multimodal language learning histories
3. 学会等名 CLaSIC 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tae Umino
2. 発表標題 A multimodal approach to exploring second language learning histories of university students in Japan
3. 学会等名 British Association for Applied Linguistics 2021 Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 布村猛、海野多枝
2. 発表標題 日本語学習者の音声における単語アクセント実現のアプローチ：高さ、長さ、強さの観点から
3. 学会等名 外国語教育学会第23回研究報告大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Tae Umino, Anas Hajar 他13名	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Multilingual Matters	5. 総ページ数 -
3. 書名 Multilingual Selves and Motivations for Learning Languages other than English in Asian Contexts	

1. 著者名 Tae Umino, Phil Benson 他17名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Clevedon: Multilingual Matters	5. 総ページ数 287
3. 書名 Visualising multilingual lives: More than words.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
カザフスタン	ナザルバエフ大学			
オーストラリア	マッコリー大学			